

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ニホンダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) ミツイイズミゼミナール
日本大学	経済学部	三井泉ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) ビッグアウト	フリガナ) オナイ タカヒロ	7	無
BIG OUT	小内 貴広		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)
パワーポイント

研究テーマ (発表タイトル)
リアルな農業を体験出来る農泊の提供

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

私達は、今回農泊に着目した。

農泊は近年、里山暮らしへの憧れや、グリーン・ツーリズムの一環として、注目を集めているものである。また、農泊は、農林水産省が「農泊」を持続的な観光ビジネスとして推進する「農泊推進対策」を創設し、約 100 億円もの予算を組んでおり、力を入れている分野である。しかし、農泊を「農業を楽しむ目的」で利用する人が多い反面、農泊を通して「リアルな農業」を体験したいという人もいることが分かった。

よって私達は、これから農業に従事しようとしている方に、リアルな農業を体験してもらおうと考え、このプランを提案する。

また、「農泊」ということば自体あまり周知されておらず、知名度も低い。しかし私達は、農泊は日本の農業の発展に寄与する可能性を大いに秘めているものと捉えている。そこで、農業の発展のために農泊の存在を少しでも多くの人に知ってもらうということも、このプランの目的の一つである。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

農泊とは、正式には農山漁村滞在型旅行のことを言い、農山漁村において日本ならではの伝統的な生活体験と農村地域の人々との交流を楽しみ、農家民宿、古民家を活用した宿泊施設など、多様な宿泊手段により旅行者にその土地の魅力を味わってもらうものだ。

今年度は、農山漁村振興交付金に約 100 億円がつき込まれ、さらに農泊推進対策の項目が追加された。しかし、ビジネスとして農泊に取り組んでいる民間企業がそれほど多くない。

3. 研究テーマの課題

私達が調査する中で、農泊は「農業を楽しみたい人」や「田舎体験をして思い出を作りたい」という人のニーズしか満たすことができておらず、「本気で農業の現場を学びたい」という人のニーズを満たしていないことが分かった。

しかし、農業は机上の学習だけでは決して十分ではない。そのため、新規就農者にとって現在の日本ではリアルな農業を学ぶ環境があまり多くないということになる。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

従来の農泊では、農業をする上で楽しむだけの体験（例えば収穫や種まき）がメインであるが、実際のところリアルな農業体験であるかは、疑問が残る。

そこで私達は、リアルな農業を体験できる農泊を提供する必要があると感じた。農業は収穫や種まきというイメージが強いが、実際の所はそれだけではない。例えば、収穫した農作物を直売所に卸す作業や、台風や害虫などのリスクを避けるための作業も、農業の一環である。そういった、管理作業までやってこそ、リアルな農業を体験できる農泊といえる。

よって私達は、「本気で農業を学びたい人」や「将来的に農業に従事しようと考えている人」に対して、リアルな農業を体験できる農泊を提供する。

私達が実際に農地を取得し、農泊を運営していく。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

活動内容としては、農家への取材、農林水産省・農泊運営団体への聞き取り、農泊を行った。詳細は、以下に掲載。

- ・横浜市の農家への取材…小島様、小山様
- ・農泊を推進している団体への電話での聞き取り…農林水産省 関東農政局 農村振興部 農村計画課，
株式会社大田原ツーリズム 栃木県大田原市，
一般社団法人 みなかみ町体験旅行 群馬県みなかみ町
- ・実際の農泊での調査/インタビュー…ペンシヨンスズキアグリ様

6. 結果や今後の取り組み

今後は、農地を取得した後に、営業許可証や消防署の許可を得ることから始める。

その後、農作物を育て、体験出来る環境が整い次第、宿泊者を募集する。

7. 参考文献

- ・八木宏典『プロが教える 農業の全てがわかる本』2010年 ナツメ社
- ・増田寛也『地方創生ビジネスの教科書』2015年 文藝春秋
- ・ジェイB.バーニー(岡田正大訳)『企業戦略論【競争優位の構築と持続】(上)』2003年 ダイヤモンド社
- ・星野伸一『限界集落株式会社』2013年 小学館
- ・「農家民泊とは」
<https://minpaku.yokozeki.net/what-is-noukaminpaku/> (2017.8.16 閲覧)
- ・「農家民宿・民泊のアンケート調査結果」(2017.8.16 閲覧)
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/ski/gt/kekkanoukaminsyuku.pdf>
- ・「農山漁村振興交付金」(2017.8.16 閲覧)
http://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/attach/pdf/shinko_kouhukin-8.pdf
- ・「グリーン・ツーリズムと農家民宿・民泊について」(2017.8.17 閲覧)
http://csspcat8.ses.usp.ac.jp/lab/ideken/sotsuron/pdf/10nakai/10nakai_2.pdf
- ・農林水産省ホームページ「第4節 都市と農村の交流・人材の育成に向けた取組」(2017.9.27 閲覧)
http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h22_h/trend/part1/chap3/c4_01_03.html

<企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経BPマーケティング社様に作製していただく大会結果HPに本企画シートは掲載されます。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。
- ※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。
- ※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。
- ※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを4ページ以内におさめて、提出してください